

第23章 この章では、このメシコ＝テヌチティトランのモンテスマ王がどのようにウィツィロポチトリ神殿の建設を始めたか、そしてメシコ＝テヌチティトランに従属させるためにチャルコの人々へ仕掛けた戦争について扱う。

数年経ち、モンテスマ王は、大将即ちオイドールのシワコアトル・トラカエレルツィンへこう言った。「我らは、久しく無為に時を過ごしているように思う。そのため、テツァウイトル・ウィツロポチトリの神殿即ち家の建設を始めることとする。そしてこのために、使節団を各町村およびその領主たちへ遣わしたい。彼らにそのことを知らせ、我らの命令を分からせ、そして、この事業において、この家のための仕事をさせるためである。そしてこのために、慣例どおり、まずはアスカプサルコとクユアカンの王たちへ、そしてクルワカン、それからスチミルコの王たちへ、そこから、クイトラワクとミスキクへ、その後、テパネカ王ネサワルコヨトルへ我らの使者たちが行くことになるだろう。」シワコアトル・トラカエレルツィンはこの命令を受けて、彼にこう言った。「我らの王よ、我にはそうであってはならないように思える。使者たちは苦勞して、汝の下した王の命令をよく説明するだろうが、かたや骨折り損でもある。そして我らの榮譽と名声、汝の強大な統治権が目減りするのだ。このために、彼らがそのことを我ら自身から聞くことができるように、然るべき日に全員を召集することを、彼らに伝えよう。こうすることが、私の考えるところでは最善であるだろう。」これに対してモンテスマは、前述の通りにするのが大変良く、他のやり方は全て反故にするよう答えた。「我が真の王であるからといって、全てを命じることはできない。汝、シワコアトルは、我と同じように王であり、我ら二人がこのメシコ王国を統治すべきなのだ。」そうして、使者たちは町村へ赴き、それらを統治する領主たちを召集した。彼らは、テスカコアカトル、ウィツナワトル、ウエカメカトルとメシカトル・テウクトリであり、これらの者たちが赴いた。そしてはじめに彼らは、アスカプサルコのアコルナワカトル・ツァクアルカトル王の元へ向かい、モンテスマ王の知らせを聞いた王は、それから旅立った。そしてここから彼らはクユアカンへ向かい、それから老王イツロリンキが出発した。そこから彼らはクルアカンへ向かい、そしてシロマンツィンが自らやって来た。そこから彼らはスチミルコの町へ向かい、知らせを伝えると、テパンキスキとクエクエチョルツィンという二人の王がそこから出発した。そこから使者たちはクイトラワクへ来て、それから同様に、彼らの領主であるツォンパン・テウクトリ・ヨコチトロリンキ

が出発した。そこから彼らはミスキクへ赴くと、知らせを聞いて、ケツアルトトルは旅立った。そこから使者たちは出発し、クルアカンへ向かい、そして命令を聞いて、それから出発した。他の者たちによれば、モンテスマ王の館では、各領主は彼らの功績と自らの序列に応じて着座した。モンテスマ王およびそのプレシデンテ、カピタン・ヘネラルであるシワコアトル・トラカエレルツィンの二人は彼らにこう伝えた。「諸君、ここに汝らが来て一同に会するのは、命令を理解し、その通りに実行するためである。諸君、汝らは誰もが、テツァウイトル・ウィツロポチトリがすでに選んだ息子たちなのだ。汝らは、神の恩寵と加護の元に迎えられた。¹そのため、すでにこの御方は汝たち全員を懐と胸に抱いていて、これからは誠に愛しい、与えられた息子たちとして、他の者たちと同様に、汝らを見守ってくれるだろう。これほどにまで勇敢で、その息子たちを愛してくださる神に対して、その高い価値と偉大さにふさわしい、世界にその名が響き渡るような、神殿即ち家を我らは作る必要がある。高く大きく、いずれ分かるように、生贄に関するものが実に整っている家、すなわち棲家を。諸君、これこそ汝らが理解することであり、そして、汝らの土地や家に着いたときには、汝らの力が及ぶあらゆる場所、あらゆる臣下へと呼びかけてほしい。」これに対して話を取り、テスクコ〔テスココ〕のネサワルコヨトルは、他の主だった領主たちを代弁して、こう言った。「我らの王、息子、我らの愛しい、畏れ多い孫であるモンテスマ王、そして、シワコアトル・トラカエレルツィン様と、ここに一堂に会した他のメシーカの有力者たちよ。我らは、我らへ命じられたことについて、大いに満足し喜んでいる。テツァウイトル・ウィツロポチトリという良き主、偉大なる神が、我らをお護りくださること、セイバの大樹（プチョトル）やイトスギの大木（アウエウエトル）の木陰にいるように、この御方のもとに心地よく庇護されていること、この御方の恩寵を被っていることは、良きこと、真つ当なこと、正しいことである。無為に時を過ごしている我らが、汝らに命じられたことをなすのは、良きことである。しかし、我らに求められていることは何であろうか。」トラカエレルツィン・シワコアトルはこう言った。「諸君、軽重さまざまな石材（トラクアウアクテトルとテソントレ）、そして石灰〔を運んでくること〕だ。」彼らは喜んでそれをやることと、それにまつわる歓待に満足していると言って、皆が去っていった。

そして別の日に、モンテスマはシワコアトル・トラカエレルツィンを呼んで、

¹ 原注 54 人差し指を伸ばした手。〔印の書き込み〕

こう言った。「メシーカの使者たちをチャルコの有力者たちの元へ遣わして、テツァウイトル・ウィツィロポチトリの工事のために、重い石を提供するように命じるのがよいだろう。これは威圧せずに穏やかに要請して、我々に従うかどうか様子を見るのがよいだろう。従うならば友人ということであり、そうでなければ、これまで戦争をした他の町に対してそうしたように、力づくでこれを行うのがよい。このことをなすのに、もっともふさわしいメシーカの有力者たちを選んでほしい。」それから、シワコアトルは4人の重臣たち、テスカコアトル、ウィツナワトル、ウエカメカトル、そしてメシカトル・テウクトリという者たちを集めて、こう言った。「メシーカの息子たちよ、諸君、伝令を携え、誠意を持って、切に、かしこまって、謙虚に、チャルコの有力者たちの元へ向かえ。そして我らの偉大な神、テツァウイトル・ウィツィロポチトリの家の工事に用いる少量の重石を、我らに親切に提供してくれるようお願いするのだ。葦の原の真ん中の、この王国に住む領主であらせられるモンテスマ王とシワコアトル・トラカエレルツィンは、そのことを要請するために遣わす。そして、我らが要請したことを彼らが理解したかどうか、その返事を注意深く聞くように。」このように命じると、使者たちは、チャルコの有力者たちの元へ向かった。使者たちは、神殿建設のためのいくらかの重い石と軽石のテソントレを承諾してもらうべく、チャルコの領主であるクアテオトルとトンテオシウテウクトリの家へおもむいた。そしてメシーカの使者たちは、この件を彼らに丁重に説明した。すると、彼らは怒りを露わにし、横柄に答え、次のように言った。「メシーカ人よ、何を言っているのだ。所望する石を差し出せだと？誰が石を差し出せというのか。我らは誠に有力者で領主なのに、その負担を負わなければならないのか？それはマセワル〔平民〕たちがやるべきことではないのか。そうあるべきではないのか。このことについては、メシーカよ、もう一辺出直してこい、チャルコの、虎、ライオン、鷲の戦士たちの主要な者たち、隊長や大将たちと話をしておく。戻ってきたときに返事は用意されているだろう。」そしてモンテスマ王とトライロトラク・シワコアトル・トラカエレルツィンは、「ご苦勞であった、仕事と旅の疲れを取るように」と言った。

モンテスマはシワコアトル・トラカエレルツィンに、「このチャルコの答えをどう思うか？これについて彼らが言っていること^の確証を得に、再度行くか、行かないか？」と言った。シワコアトルは答えて、こう言った。「王よ、何を仰るのか？彼らは戻るべきでないか？〔いや〕彼らは再び戻るべきなのだ。このよう

に、そこで戻らなければ、返答を持ち帰らないことを理由にして、こんな要求を送りつけて、嘲っていると言うだろう。それで、後で彼らが言い逃れないように、明日、同じ使者が我々の要求を持って、もう一辺行かせる。なぜならもう彼らが言い訳できないように、もう一辺同じ要求を持って帰ることが必要なのだ。」モンテスマは「汝がそう望むなら、汝の命じる通りにさせ、他の者ではなく、同じ使者たちをそこへ戻らせて、我らの最初の要求をもう一度突き付けよう」と言った。

【訳：岡崎雅子 2026/3/20】